

保健師現任教育に取り入れたピアエデュケーションの効果 —新任保健師研修及び中堅保健師研修受講者の学習カードの分析から—

Key words: 新任保健師、中堅保健師、現任教育、ピアエデュケーション

田多良佳代¹⁾、小野美奈子¹⁾、川原瑞代¹⁾、日高美加子¹⁾、荒瀬みえ²⁾、
阿波野恵³⁾、後藤由佳⁴⁾、木添茂子⁵⁾、田中美幸⁶⁾、山内裕子⁷⁾

1)宮崎県立看護大学、2)宮崎県立看護大学大学院博士前期課程、
3)宮崎県高鍋保健所、4)宮崎県日南保健所、5)宮崎県延岡保健所、
6)宮崎県小林保健所、7)宮崎県後期高齢者医療広域連合

I はじめに

複雑化する地域保健の課題を解決するため、保健師に求められる役割は年々大きくなっている。新たな健康課題に対応するためには、保健師自身が資質の向上、実践力の向上を目指して継続的に自己研鑽をしていくことが必要であり、そのための環境整備や、系統だった総合的な研修の提供が不可欠である。

宮崎県でも、保健師の人材育成能力、実践力向上を目指し、平成23年度から「保健師の力育成事業」^{1) 2)}に取り組んでいる。この事業では、宮崎県立看護大学、宮崎県、宮崎県看護協会保健師職能が協働し、新任・中堅・リーダー保健師と、段階に応じた現任教育研修の企画・実施・評価を行いながら現任教育プログラムの開発と教育体制を整備するとともに、事業成果に基づく保健師現任教育マニュアルの作成をおこなうことを目的としている。3年間の取り組みにより、新任保健師研修Ⅰ・Ⅱ、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱ、リーダー保健師研修からなる段階別保健師研修体系が構築できた。また、各研修の標準プログラムを作成し、宮崎県保健師現任教育マニュアルを完成させた。

新任保健師研修、中堅保健師研修の標準プログラムの一つとして、ピアエデュケーションを取り入れた。日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会の定義によれば、ピアエデュケーションとは、「仲間と共感・共有しながら、“正しい知識・スキル・行動を共有し合うこと”である」とされている。ピアエデュケーションは、エイズ教育や性教育に多く活用されており、アルコールハラスメント予防教育³⁾や職業的アイデンティティ形成教育⁴⁾への活用についても報告されている。

本研究では、仲間同士の意見交換の中で、成長することを期待して保健師現任教育に取り入れたピアエデュケーションにおける受講生の学びを明らかにし、標準プログラムとして位置づけることの効果について検討した。

II 研究目的

新任保健師研修と中堅保健師研修におけるピアエデュケーションの受講生の学びを明らかにし、ピアエデュケーションを保健師現任教育の標準プログラムとして位置づけることの効果について考察する。

Ⅲ ピアエデュケーション研修の概要

新任保健師研修、中堅保健師研修、いずれも8月～2月の6回程度の集合研修のうち1回をピアエデュケーションにあてる。各々同期の保健師1～3名が講師となり、プログラムの運営を含めて担当する。講師となった保健師が自己の実践を報告後、保健師活動について受講生とグループワーク等により意見交換を行う。



<写真：新任保健師研修における

ピア・エデュケーションの様子>

Ⅳ 研究方法

1. 対象

- ①平成23年度新任保健師研修受講者25名のピアエデュケーションの受講後学習カード
- ②平成23年度中堅保健師研修受講者8名及び平成25年度中堅保健師研修受講者9名のピアエデュケーションの受講後学習カード

2. 分析方法

- ①新任保健師の学習カードから、学びの記述を抽出し、共通性を検討・カテゴリー化し、受講生の学びを明らかにする。
- ②中堅保健師の学習カードから、学びの記述を抽出し、共通性を検討・カテゴリー化し、受講生の学びを明らかにする。
- ③①②から、ピアエデュケーションの保健師現任教育における効果及び標準プログラムとして位置づけることの妥当性について考察する。

3. 倫理的配慮

受講生には趣旨を説明し、記録を研究に使うことの同意及び公表することの同意を得た。研究に当たっては研究倫理の遵守・個人情報の保護に努め、公表に当たっては所属機関の長の許可を得た。

Ⅴ 結果

1. 新任保健師の学習カードからは93の記述が抽出できた（「」は抽出した記述、<>は抽出したカテゴリー、()は記述数）。（表1）

「自分一人が悩んでいるのではないと安心した」「自分と同じ悩みの人がいってうれしかった」など同期の保健師の抱く悩みを知り、自分一人ではないと<悩みの共感と連帯感からもたらされる安心感>(17)を感じると共に、「お互いに成長できる場をつくって行けたらいい」「同期の仲間を大切に一緒に成長していきたい」など<共に育ち合う仲間づくりの重要性を実感>(20)していた。

また、同期の実践にふれ、「しっかりと自分の考えをもって活動しているという点で今の自分と全く違う」など<自分を見つめ直し保健師としての弱みを認識>(6)するとともに、「自分とは違う考えや視点で保健師活動を行っている」と新たな発見があった」など<新たな発見や視野の広がり>(6)を実感していた。

さらに、同期のグループワークの進め方やプレゼンテーションから、「ワールドカフェの技法を保健師活動に活かしたい」など<保健師活動にいかせる技法を学ぶ>(4)、「なぜ自分はそのような対応をしたのか、振り返ることが成長していく糧になる」など<成長につながる方策を学ぶ>(13)等、自己の実践に活用可能な内容を学び取っていた。そして、いきいきと活動する同期の姿から「自分もがんばろうと刺激を受けた」など<目標像を見出しエネルギーがわく>(11)ことにより「保健師として自分が何をすべきなのか、どのような役割を果たすべきかを考えながら働くことが大事」と<保健師としての自覚と成長への決意>(16)を抱いていた。

表1 新任保健師のピアエデュケーションの学び

カテゴリー	抽出した記述例（記述数）
悩みの共感と連帯感からもたらされる安心感	自分一人が悩んでいるのではないと安心した・自分と同じ悩みの人がいってうれしかった・同じ事を考えているのだと共感した・困っているのは自分だけでない・悩んでいるのは自分だけではないと思えた 他 (17)
共に育ち合う仲間づくりの重要性の実感	語り合う場があればいいな・悩みや意見を共有できる場があればいい・お互いに成長できる場をつくって行けたらいい・同期の仲間を大切に一緒に成長していきたい・同じ新任期の保健師と思いを共有できて仕事に対する気持ちの持ち方が変わった 他 (20)
自分を見つめ直し保健師としての弱みを認識	しっかりと自分の考えをもって活動しているという点で今の自分と全く違う・自分は保健師の視点が欠けていたと気付いた・期限のある事務作業にばかり目がいき、個別支援が不十分であると感じる・甘えていた自分に気付く 他 (6)
新たな発見や視野の広がり	どこにいても保健師活動の基盤は同じ・他県の状態を知れた・他県の特異な事情を知った・自分とは違う考えや視点で保健師活動を行っている」と新たな発見があった 他 (6)
保健師活動にいかせる技法を学ぶ	ワールドカフェの技法を保健師活動に活かしたい・管内の話合いの場でも使いたい技法・自分の保健活動を共有する、上手に伝えるという点で参考にしたい 他 (4)
成長につながる方策を学ぶ	保健師になろうと思ったきっかけを考えながら業務に臨むことで保健師の視点が持てるのではないかと・さまざまな人と情報共有することが大切・なぜ自分はそのような対応をしたのか、振り返ることが成長していく糧になる・失敗を恐れずたくさんを経験することにより知識となり技術となる 他 (13)

目標像を見出しエネルギーがわく	モチベーションの高さ、表現力に圧倒され、さまざまなことを考えていることに驚いた・問題意識を持ち自己研鑽に取り組んでいることをしり衝撃・自分もがんばろうと刺激を受けた・同世代でこんなにも保健師として輝いていることに衝撃をうけた 他 (11)
保健師としての自覚と成長への決意	保健師という職業の深さに気付く・どんなに忙しくてもPDCAサイクルを忘れずに自分が行うべき保健活動を見失わないようになりたい・保健師として自分が何をすべきなのか、どのような役割を果たすべきかを考えながら働くことが大事・どんな仕事も住民の健康とつなげて意味づけ保健師活動として自信を持っていきたい 他 (16)

2. 中堅保健師の学習カードからは 37 の記述が抽出できた (<>は抽出したカテゴリー()は記述数)。(表 2)

同期の<思いに共感>(2)するとともに<切磋琢磨できる仲間づくりへの欲求>(6)を抱いていた。

また、自己実現を目指す<中堅保健師としての生き方モデルを見出す>(3)ことにより、<自己の課題を整理>(6)し、<自己研鑽の行動化への動機づけ>(7)の機会となっていた。

さらに、<組織の中での自己の立場を自覚>(5)し、<後輩支援のあり方に気付く>(4)ことができ<中堅保健師に求められる能力を再認識し成長課題を見出す>(4)ことができていた。

表 2 中堅保健師のピアエデュケーションの学び

カテゴリー	抽出した記述例 (記述数)
思いに共感	あせりや不安に共感・思いに共感 (2)
切磋琢磨できる仲間づくりへの欲求	共に育つ仲間がいるのがうらやましい・一緒にがんばれる仲間を増やしたい・仲間と共に高め合っていきたい・仲間として意識を高め合っていきたい 他 (6)
中堅保健師としての生き方モデルを見出す	自己実現のための努力に感銘・中堅保健師は科学的判断力と人間的完成の両側面の向上が不可欠・自主研修会の受講、政策提言、市民会議発足へと実現していることに感銘 (3)
自己の課題を整理	自分のできない部分を自己評価・保健師としての動機や自覚が育っているかを自己評価・成長を確認できた・違和感になれている自分との格差を感じた 他 (6)
自己研鑽の行動化への動機づけ	自ら学ぶ姿勢に感動し、自分もそうしたい・思うだけではなにも変わらない・解決に向けてアクションを起こしたい・まずはできることから始めたい 他 (6)
組織の中での自己の立場を自覚	組織の中で働く自己の立場を自覚・中堅としての自己の役割を示してもらえた・組織の中の中堅としての視点がなかった 他 (5)

後輩支援のあり方に気付く	後輩に教えるのではない自分で気づける支援が大切・後輩への支援方法を参考にしたい 他 (4)
中堅保健師に求められる能力を再認識し成長課題を見出す	全体を俯瞰しつつ住民を中心に共同で高め合う意識や力が中堅期には求められる・上司に根拠をもって可視化させ提言していきたい 他 (4)

VI 考察

1. 新任保健師研修におけるピアエデュケーションの効果

宮崎県では、新任保健師研修の目的として、「専門職業人として成長する上で、生涯にわたり自己研鑽を積む基本的姿勢の育成」を挙げている。今回の研究で、ピアエデュケーションの学びとして＜保健師としての自覚と成長への決意＞＜成長につながる方策を学ぶ＞が抽出されたことより、保健師としての基本的姿勢の獲得につながったことが確認できた。

また、＜悩みの共有と連帯感からもたらされる安心感＞、＜共に育ちあう仲間づくりの重要性の実感＞が抽出されたことより、仲間と共に学ぶことの重要性に気付くことができていた。同期の保健師が職場内にいない場合、新任期特有の悩みを共有することは難しい。田中ら⁵⁾は、現任教育のあり方についての研究において、同期の保健師で集まって相談しあえるなど協力者が存在するサポート状況は、研修課題を達成する上でプラスの要因となることを指摘していた。このことから、就職1年目の同期で学び合うことが、研修を乗り越えることができる強化因子になるとともに、研修参加のモチベーション向上につながると考えられる。

さらに、＜新たな発見や視野の広がり＞、＜目標像を見出しエネルギーがわく＞などのカテゴリーが抽出できたことは、他県で活動している新任保健師自主グループのメンバーを講師に招いたことが大きく影響していると思われる。主体的に学び、活動を情報発信している同期の講師⁶⁾との交流から、異なる考え方や取り組みを聞き、多くの刺激を受けたことにより、新たな発見や保健師としての目標像を見出すことにつながったと考えられる。このことから、ピアエデュケーションでは、モデルとなる講師の選定が学びの深まりに大きな影響を及ぼすことが再確認できた。

最後に、県と市町村の業務上の連携が少なくなった現在、県と市町村の新任期の保健師が一堂に会して学ぶことの意義は大きいと考える。入職当初に共に研修をうけ、仲間意識を育むことが、研修終了後の交流につながり、仕事上の連携強化へと発展していくことが可能となると思われる。宮崎県では、新任保健師研修を修了した若手保健師が、自主グループを立ち上げ、県と市町村の保健師の交流が継続されている。今後、他県の自主グループと情報交換しながら、グループ活動が活性化していくことを期待したい。

2. 中堅保健師研修におけるピアエデュケーション

宮崎県では、中堅保健師研修の到達目標の一つに「共同で学び合い、保健師の専門性の実践知や保健師活動の真価を評価しあうことを通してモチベーションの向上、保

健師としてのアイデンティティの強化につなげる」を挙げている。

地域保健活動の中心を担う中堅期の保健師の実態として、自己評価の低さが指摘されている⁷⁾。根岸らは、30歳代の保健師は、自信はあるものの、職業に対する自尊心や適応意識を持ちにくい傾向があるとしており、自らの活動を他者から評価されることを通して保健師としてのアイデンティティを強化していく必要がある、と指摘している⁸⁾。抽出されたカテゴリーから、中堅保健師は、組織の中で中堅保健師に求められる能力を再認識し、成長課題を見出す事ができていたと確認できた。このことが可能となったのは、モデルとなる中堅保健師の活動にふれ、自分のできない部分、成長を確認できた部分など、客観的に自己評価し、＜自己の課題を整理＞することが可能となったことが影響していると考える。平野は「自信のなさが生じる原因は、地域保健活動を主体的に実践した経験がないことや、その展開をイメージすることの難しさ、そして、自己の展開した活動を客観的に評価することの難しさと考えられた」と述べている⁹⁾。同期の中堅保健師が語る活動を聞きながら追体験することにより、保健師活動の価値を実感し、「このような保健師活動をやりたい」「やれそう」という自信がわき上がり、地域の課題解決に向けてアクションを起こしたい思いが引き出されたと考える。

また、＜切磋琢磨できる仲間づくりへの欲求＞というカテゴリーが抽出され、中堅保健師は、仲間と共に高め合っていきたい思いがあることが確認できた。永江らの調査¹⁰⁾では、中堅保健師が自己の成長を感じる時として、8割以上が「同僚、仲間から評価された時」と答えていた。同期の仲間同士で、お互いの活動を語り合い、評価し合うことがモチベーションの向上につながっていくといえる。

以上より、ピアエデュケーションは、保健師としてのアイデンティティの強化につながり、中堅保健師研修の到達目標の達成に有効であるといえる。

VI 結論

新任保健師研修と中堅保健師研修におけるピアエデュケーションの受講生の学習カードを分析したところ、それぞれ学びを示す8のカテゴリーが抽出され、ピアエデュケーションは自己評価能力と専門職の基本的能力である向上心の形成に効果的なプログラムであると評価できた。このことから、ピアエデュケーションは、研修目的と到達目標の到達度を高めるための標準プログラムとして妥当であり、教育効果をあげるためには、同期のモデルとなり得る講師の選定が重要であることが示唆された。

本稿は第3回日本公衆衛生看護学会（兵庫県神戸市）にて発表した報告に加筆したものである。本研究の遂行にあたり、ご協力を賜りました新任保健師研修及び中堅保健師研修の関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

<引用文献>

- 1) 川原瑞代, 小野美奈子, 横山真智子, 他(2012) : 看護大学・行政機関・看護協会保健師職能が協働で取り組む保健師現任教育, 保健師ジャーナル, 68(5), 384-389.
- 2) 小野美奈子(2015) : 「保健師の力育成事業」で取り組む宮崎県の保健師現任教育, 公衆衛生, 79(2), 129-131.
- 3) 斎藤千景, 竹鼻ゆかり(2010) : ピアエデュケーションによる大学性へのアルコールハラスメント防止教育の研究, 学校保健研究, 52(5), 398-406.
- 4) 高木有子, 落合幸子(2009) : 医療系大学でのピアエデュケーションが職業的アイデンティティに及ぼす影響, 茨城県立医療大学紀要, 14, 99-107.
- 5) 田中小百合, 榎本妙子, 植村小夜子, 他(2013) : 新任保健師が教育プログラムの課題を達成できなかった要因と現任教育のあり方, 明治国際大学誌, 9, 9-18.
- 6) 萩原加奈子, 高橋勇太(2013) : 第4回若葉保健師からのメッセージ, 第1回日本公衆衛生看護学会学術集会 講演集, 23.
- 7) 佐伯和子, 和泉比佐子, 宇座美代子, 他(2004) : 行政機関に働く保健師の専門職務遂行能力の発達-経験年数別の比較-, 日本地域看護学会誌, 7(1), 16-22.
- 8) 根岸薫, 麻原きよみ, 柳井晴夫(2010) : 「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討, 日本公衆誌, 57(1), 27-38.
- 9) 平野美千代(2006) : 地域保健活動における中堅保健師の自信のなさの原因-精神障害者支援を展開した保健所中堅保健師のインタビューをとおして-, 社会医学研究, No. 24, 17.
- 10) 財団法人日本公衆衛生協会(2012) : 平成23年度地域保健総合推進事業 中堅保健師の人材育成に関するガイドラインおよび中堅期保健師の人材育成に関する調査研究報告書.